たかしま　りょうすけ
髙島　崚輔 さん

大学学部留学（大学からの奨学金）

2015年3月
灘高等学校卒業
2015年4月
東京大学 文科一類 入学
2015年9月
ハーバード大学 学位取得留学
（世界の再生可能エネルギーの現場視察等で2年間休学）
2020年1月
ハーバード大学復学
2020年9月
COVID-19の影響で日本にて休学

帰国後

具体的な内容や場所はそのときにベストの選択をしたいが、教育とエネルギーの分野で、社会の基盤となるような仕組みづくりに励みたい。とりわけ、現在は日本で大学教育の価値が低く見られている状況に課題を感じ、大学をつくりたいと考えている。

休学中、オランダで発電所を見学

現場と大学を行き来して、自分らしく学ぶ

先輩の一言に心揺さぶられた高2の冬

海外在住経験がなかった僕が海外大学進学を意識したのは、ハーバードに進学した高校の先輩に勧められたことでした。「髙島は海外大学の方が成長できるんじゃない？」最初は英語力が不安で自分には縁遠い世界だと思っていましたが、一度は見学に行った方がいいと強く勧められ、高2の2月に実際にハーバードを訪問しました。そこで出会ったのは自分の「好き」を貫き自由に学ぶ学生。彼らの姿とキャンパスに漂う学びへの情熱あふれる雰囲気に憧れ、ハーバードを目指しました。

学びをデザインできる場所、ハーバード

きっかけが大学訪問だったので、「留学したい」よりも「ハーバードで学びたい」という思いで出願準備を進めました。ハーバードでは毎学期、大学院の授業も含めて1,000ほどの中から好きな授業を4つ選んで受講します。そんな学びを自由にデザインできる点も、文理選択に悩んだ僕にとっては魅力的でした。出願時には自己分析を重ね、大学に行く目的や4年後の目標の言語化に努めました。進学後に計画はどんどん変わりましたが、渡米前に徹底的に自己に向き合ったからこそ、目的意識を持って主体的に学び続けられているのだと思います。

大学はあくまで手段。大学を「使い倒す」

入学後2年経って、1年半休学しました。大学では学びがどのように実社会に繋がるか実感できなかったためです。休学中は、専攻のエネルギー工学を深く学ぶため、国内で有識者と議論した他、ヨーロッパなど世界を旅し、スタートアップや行政機関、学会などを訪問しました。日本で自然エネルギーを普及させるには何が必要か。そのために何を学ぶべきか。現場視察によって自身の学ぶ目的が明確になったことで、大学での学びのモチベーションがさらに高まりました。復学後に受講した大学院の授業では「2055年までに米国のCO_2排出量を半減せよ」という最終課題に公衆衛生学の博士課程、都市デザインの修士課程の学生と取り組み、米国が今後進むべき方向性を提言。異分野を学ぶ学生との共同プロジェクトこそが大学の醍醐味であり固有の価値だと実感しました。

言葉の壁を超えたラグビー

自分に素直に、今しかできないことを

実は卒業まで残り1年を切って、COVID-19の影響で休学を余儀なくされました。想定外の出来事で計画は変わり得ます。だからこそ自分の気持ちに素直に、これからも今しかできないチャレンジを続けていきます。ハーバードで自分の「好き」を貫く仲間と多く出会ったことも、挑戦を続ける力の源泉です。

自分の強みとユニークな部分を客観視

自分にとって不利な環境に飛び込んだことで、生き方も変わりました。英語の壁に立ち向かうため、自分の強みや他人とは違う部分を活かしてアピールしようともがく中で、自己を客観視できるようになりました。同時に自分の弱さを受け入れ、他人に頼れるようにもなったことで自然体で生きる術を身に着けました。

チャンスの神様には前髪しかない

チャンスが目の前に来たらすぐに掴まなければならない。逃した後に悔やんでも遅いから。海外留学では、新しい挑戦の機会が増えることでしょう。その機会を活かすには特別な能力よりも、日々努力を重ねてチャンスを掴む準備を行うことこそが重要です。いつチャンスが巡ってきても掴めるように、準備は万全にしてください！

川から望むハーバードの学生寮

私の英語勉強法　**「英語よりも大切なこと」**

誤解を恐れずに言うと、完璧な英語力を有して留学を始めることは不可能だと思います。だからこそ英語力よりも自分の軸、すなわち強い目的意識と主体的な覚悟こそが必要です。僕が理事長を務める、海外進学を支援するNPO法人留学フェローシップ（https://ryu-fellow.org/）では、主体的に学び、行動する先輩や仲間に出会うことができるイベントを全国で開催中です。
将来海外で学びたい方は、是非お越しください！

柴田（しばた） カンナ（かんな） さん

大学学部留学(The High Achievers' Scholarships)

2014年9月
HELP Matriculation center のファウンデーションコースへ留学 【The High Achievers' Scholarships】
2015年9月
University of London(Institution in Malaysia) へ学位取得留学 【The High Achievers' Scholarships】

帰国後

2017年7月 外資系企業の日本法人にてインターンシップ。
2018年10月 外資系企業の日本法人に就職。現在に至る。

ペトロナスタワーをバックに

最高の経験

短期留学をきっかけに海外進学

幼い頃からよく旅行で海外に連れていってもらうことが多く、「海外は楽しいところ」という漠然としたイメージをいつも持っていました。中学校と高校で、それぞれオーストラリアとアメリカへの2 週間程度の短期留学をし、現地の子と一緒に授業を受けたときに、自分が日本で通っていた学校の授業スタイルとは全然違っており、驚いたことを今でも覚えています。ディスカッション中に、自分の意見をしっかりと言っている子が多く、「私もあんなふうに、自分の意見を堂々と言えるようになりたいな」と思ったことをきっかけに、大学は海外へ行きたいと思うようになりました。

とにかく海外！という思いで全て乗り切る

大学進学に関して、「どこでもいいからとにかく海外！」と思っており、最初から国や地域を絞るのではなく、自分の勉強したい分野がある国という条件のみを設定し、世界中の大学をインターネットでひたすら調べました。その際、ロンドン大学が世界中でプログラムを展開していることを知り、ロンドン大学に行こうと決めました。イギリスの大学に入学するためには、ファウンデーションコースを修了していなければならないため、そのコースがある国も調べて行くと徐々に絞られました。複数の選択肢を親と相談した結果、マレーシアに留学することに決めました。「とにかく行きたい！」と思っていたので大変に感じることは何もありませんでした。

ピンクモスク

友達に助けられながら困難を乗り越える

ファウンデーションコースで良い結果を出さないと、ロンドン大学に入学することができないため、最初の1年は、寝ている時間以外はとにかく勉強していました。ファウンデーションコースでは、必須科目が定められており、自分があまり興味のない分野も勉強しなければならず、わけもわからずテスト範囲の教科書を丸暗記した時もありました。また、寮生活では、様々な国の学生と一緒に共同生活をするので、文化の違いなどから生じる苦労もありました。健康面では、デング熱にかかり入院したりと、大変なこともたくさんありましたが、友達に恵まれ、いつも助けられていました。そのため困難に思うよりも、友達への感謝の気持ちの方が強かったです。1年経つ頃には、勉強や現地での生活にも慣れ、勉強するばかりではなく、友達との時間も楽しめるようになりました。

まずは日本で就職することに

日本で就職するか、海外で就職するかは結構迷いましたが、未経験（新卒）で海外就職するよりは、日本で経験やスキルを身につけたあとに海外へ行く方が選択肢も広がるのではないかと考え、日本で就職することに決めました。

いきつけの屋台

留学経験は私の最高の資産

英語力はもちろん、素晴らしい友達や粘り強い交渉力、文化の違いを尊重しつつ、良い人間関係を構築すること、世界中のどこでどんなことがあっても屈しないという自信を手に入れられました。それらは全て私の資産となっています。おかげで、社会人になって、初めて経験することにも臆することなく自信を持って挑めています。

現地のひとをよく理解することが大切

マレーシアは、のんびりとした気質の人が多いため、事務手続きなどがスムーズに行かないことが多いです。慣れるまでは大変ですが、粘り強く交渉したり、早め早めに動いたりすることでストレスは減らせます。また、やさしい人が多いので、困った時は、遠慮せずに周りに助けを求めることも大切です。

私の英語勉強法 「毎日ひたすら英語に触れる」

留学前は、毎日ひたすら英語に触れることを意識していました。もともと洋画が大好きだったので、同じ映画を何度も見てセリフを覚え、英会話や表現を勉強していました。また、興味のある分野の記事を英語で読んで知らない単語を書き出して覚えたりすることで、単語の勉強をしていました。英語力のテスト対策に関しては、ひたすら問題集を解いて勉強しました。

後藤（ごとう） 悠香（はるか） さん

大学学部留学（JASSO第二種奨学金（海外）／民間団体奨学金）

2014年3月 大阪府立千里高等学校 卒業
2015年9月 King's College London International Foundation Programme
2016年9月 King's College London BSc Business Management
2017年6月 University of Toronto Rotman School of Management
2019年6月 King's College London 卒業 BSc Business Management

帰国後

2019年8月
外資系企業の日本支社に就職
2020年2月
上記企業を退職
2020年3月
特定非営利活動法人（NPO法人）に就職、現在に至る。

卒業論文の授賞式で友人と

ロンドンで学んだ主体性と多様な価値軸

憧れと自信のなさがきっかけに

高校卒業後の進路として海外に目を向けるようになったのは、高校2年生の夏休みに行ったフィンランドでの経験がきっかけです。ホストファミリーが連れて行ってくれたフィンランドの大学は、当時の自分がイメージしていた「講義を受ける場所」とはかけ離れており、そのオープンで明るい雰囲気に強く惹かれて、海外の大学を目指すようになりました。後押しになったのは、自分への自信のなさだったかもしれません。海外大学に進学することで自分を誇れるような「何か」を手にできると期待していたのではないかと、今振り返って思います。

自分の関心を深められる場所、イギリスへ

学びたいことがはっきりしていなかった高校2年生の私は、入学後に学部を選択できるアメリカのリベラルアーツ大学を志望していました。しかし、出願が完了した高校3年生の12月にCSR（企業の社会的責任）という取り組みに出会い「大学でこれを学びたい！」と進路の変更を決意。CSRの発祥地であるイギリスでCSRが学べるKing's College Londonを目指すようになりました。今私が所属しているNPO法人留学フェローシップという団体には情報収集やアプリケーション作成の面で非常に助けられました。

求められたのは学びを自ら掴みにいく姿勢

イギリスの大学は特に自主性・主体性が求められる環境であると思います。アメリカやカナダの大学に比べて課題の量は少なく、授業参加への成績加点も少ないからです。ただ、

大学の図書館

求めれば与えられる学びや経験は膨大であるため、自ら学びたいことを吸収しにいく姿勢が大切です。その姿勢を強く実感したのは最終学年で取り組んだ卒論執筆です。テーマを何にするのか、どの教授に相談するのか、どのようなリサーチが必要でどうそれを実践するのかなど、全て自分で組み立てる必要があり、また、進捗の確認もほとんどありませんでした。3年間で培った自分で学びを掴みにいく姿勢がなければ、最後までやり切ることはできなかっただろうと思います。学問の内容だけでなく、学びに対する姿勢も含めて卒論執筆は大学生活の集大成と言え、とても思い出深い経験です。

7か月で大手外資企業を辞めてNPOへ

卒業後は日本に帰国し、在学中に内定をいただいていた外資企業に就職しました。大学在籍中から携わっていた教育系NPO法人との副業が可能であったことが後押しとなり入社を決めたのですが、副業での活動をメインにしたいと思い、7か月で退職。現在はそのNPO法人で正職員として働いています。

大事にしたい価値観・想いに素直に生きる

海外の大学に進学して多様な価値軸に触れることがなければ、いわゆる世間的に「すごい」と呼ばれるような大企業を辞めてまでNPOに就職することはなかっただろうと思います。周りの人の価値軸だけでなく「自分が大事にしたい価値観・想いは何か」を考え、行動できるようになったのは、大きな収穫だったなあと思います。

想いを言語化することの大切さ

何を、何のために学びたいのか。留学する理由や想いを言葉にすることが大切だと思います。海外大学での生活は楽しいことばかりではありません。辛いと感じた気持ちを乗り越えるために、また、主体的に学びを掴み取るためにも「自分がそこで頑張りたい理由」を言語化させておくことは大きな支えになるだろうと思います。

インパクト投資部の仲間と

私の英語勉強法 「面白い！と思える文章に触れよう」

まずは中学や高校で使うグラマーの教科書の問題を繰り返し解くなどして文法や基本構文を暗記・理解することをお勧めします。そのあとはひたすら単語、コロケーションなどを覚えていくと思いますが、ここでお勧めなのが、自分の関心ある分野の文章に触れること。大学で読むのは専攻関連分野の論文・教科書なのでその予習になることはもちろん、自分の興味のある文章は少し難しくても楽しく読むことができますよ！